

平成20年度 フッ化物洗口普及モデル事業実施報告書

【市町村名】 成田市

【郡市歯科医師会名】

印旛郡市歯科医師会

実施施設数			
保育所数	幼稚園数	小学校数	中学校数
0	0	1	0

1. フッ化物洗口に関する前年度までの経緯

むし菌予防推進指定校以降、毎年、校医によるブラッシング指導や講話等を児童、PTA、教員に対して行ってきた。その成果もあり着実に DMF の低下が見られたが、このところその低下がみられず、逆に増加することもあり、その対策としてフッ化物洗口の推進を協議してきた。19 年7月に校医による教員に対する講義（一般歯科的 content+ブラッシング指導）を行う。11 月には 20 年度入学の PTA に対して講話（一般的 content+就学時健診の総評+フッ化物洗口）、12 月と 20 年1月に教員に対して2日間でフッ化物洗口に対する講義と実際の洗口を行う。PTA に関しては、フッ化物洗口に関する講話とリーフレットの配布を行う。2月に入りフッ化物洗口についてのアンケート調査を行い2月28日洗口練習後、3月5日にフッ化物洗口を開始。

20 年度においては、本城小においてそのまま継続して行い、この事業をこの中学校区にて行いたく、10月30日に小学校の校長4名と中学校の養護教諭にて会議を持った。しかし、各々の学校の PTA と話し合うことなく、責任問題が起きた時の対処（教育委員会の非協力）と日教組に入っている教員の反対により今年度の実施は見送ることになる。

2. 推進体制づくりの経緯

実施事項	具体的な内容	評価
洗口推進会議	毎年行われる歯科健診のデータを分析し、さらなる DMF の低下と子供たちの行動変容のために、フッ化物洗口を行うことで、校長、養護教諭、学校歯科医で会議を重ねる。	出席者にフッ化物洗口の有効性と安全性が理解され共通の理解が得られた。 フッ化物洗口を継続して行うことにより DMF の低下を期待する。

3. 施設における取り組み内容

施設 成田市立本城小学校 児童数 251 名・職員数 26 名

実施事項	具体的な内容	評価
職員研修	平成 20 年 7 月 31 日、学校歯科医による口腔衛生全般に関する講演（フッ化物に関する講演を含む）を行う。新任の先生にはフッ化物洗口剤の作製・洗口の体験をしてもらう。	講師の話がとてもわかりやすかったのでフッ化物に関してよく理解できた。洗口体験は有効だった。
保護者説明会	平成 20 年 10 月 27 日の就学時健診後、保護者に対して学校歯科医によるフッ化物に関する内容を含む口腔衛生全般に関する講演を行う。講演終了後フッ化物洗口を体験してもらう。	フッ化物が歯にいいことは知っていたが、何故いいのか理解ができた。洗口体験は有効だった。

アンケート調査	・入学後、フッ化物洗口実施に関するアンケートを行う。	100%の実施となった。
---------	----------------------------	--------------

4. 問題となったこと・今後の課題とその対応について

本校では、校長先生の協力もありスムーズに行うことが出来ているが、やはり、中学校区全体で行うこと(9年間)の重要性(小学生の間では、永久歯がすべて生え揃っていない)が、他の学校の校長先生以下の教員に理解されていない。さらなるフッ化物に関する理解を求めるよう普段の校医の学校とのかかわりが重要と思われる

5. 21年度以降の事業の予定・市町村事業としての予算化の有無

今のところ無し。

6. 記録写真等



洗口実施風景

平成20年度 フッ化物洗口普及モデル事業実施報告書

【市町村名】 匝瑳市 【郡市歯科医師会名】 匝瑳郡市歯科医師会

実施施設数			
保育所数	幼稚園数	小学校数	中学校数
1	0	2	0

1. フッ化物洗口に関する前年度までの経緯

《栄小学校》

平成 13 年度に、学校長との話の中で、学校歯科医より現在の学校における予防歯科事業について、フッ化物洗口の話になる。予防歯科事業の一環として、平成 14 年より小学校 2 年生のみを対象に歯ブラシ指導とフッ化物洗口指導を年に 1 回程度継続した。匝瑳市歯科医師会元会長の提案に伴い、フッ化物洗口への取り組みへの協力を小学校に話したところ、養護教諭や他の先生からも理解が得られたため、職員会議にて協議した。保護者の賛同も多数得られたことから、平成 19 年 2 月 1 日より洗口を開始し、平成 20 年度も実施中である。

《平和小学校》

平成 16 年度歯科検診結果から、校医よりむし歯予防対策として「フッ化物洗口」を導入してはどうかと指導を受ける。校内で検討した後、保護者に説明をして「フッ化物洗口」を開始する。

《平和保育園》

平成 17 年度に、保育所の歯科検診受診時、園医よりフッ化物洗口について初めて提案を受ける。18 年度にも地域の小・中学校で実施している経緯を聞き、保育所から始めるとより効果的であると認識し、職員会議にて取り組みについて説明する。保護者に同意を得る為に「子育て講座」にて、園医から「フッ化物洗口」について講演を受け、保護者に希望調査し、7 月 20 日より洗口を開始した。

2. 推進体制づくりの経緯

実施事項	具体的な内容	評価
《栄小学校》 職員会議	フッ化物洗口は、継続性が必要なため、次年度も引き続き行う方向で、意見がまとまった。	この一年間実施し、予防歯科事業の目的とその効果について、先生方のほぼ全員が理解できた。安全性や実施方法についても理解されている。
《平和保育所》 職員会議	年度初めの職員会議にて、昨年に引き続き、対象児童及び進め方等、共通理解を図る。	昨年の経緯を踏まえ、担任から次の担任へ引き継がれ、無理なく取り組まれた。

3. 施設における取り組み内容

施設① 栄小学校・児童数 210 名（対象者 210 名・希望者 207 名）・職員数 18 名

実施事項	具体的な内容	評価
保護者説明会	H20 年 4 月 16 日全児童保護者集会にて学校歯科医がフッ化物洗口の説明を行った。	むし歯の予防事業の目的や、実施方法に対しての一定の理解が得られると共に、歯についての健康の動機付けを得る、よい機会となった。
洗口希望調査	全学年児童の保護者に対し、紙面上における希望調査を行った。	全学年児童の保護者からの理解を得られ、フッ素洗口の参加を希望される。
洗口の実施	高学年の児童は 5 月から行い、低学年の児童は歯ブラシ練習後、9 月からフッ化物洗口を行った。	前年度に引き続き、スムーズに実施された。

施設② 平和小学校・児童数 167 名・職員数 18 名

実施事項	具体的な内容	評価
職員の研修	担当者が「フッ化物洗口」の研修会に参加し、全職員に伝達する。	養護教諭が中心となり行ったのでスムーズにできた。
保護者への説明会	保護者に対して、学校歯科医より「フッ化物洗口」の効果等について説明会を開く。	具体的な資料を用いての説明で保護者の理解が深まった。
家庭へのお知らせ	学校より「フッ化物洗口」の文書を作成し、各家庭へ配布した。	保護者に理解され、スムーズにスタートすることができた。

施設③ 平和保育所・園児数 81 名（対象者 19 名・希望者 19 名）・職員数 12 名

実施事項	具体的な内容	評価
保護者希望調査	昨年度から実施している園児はそのまま継続。途中入所児 1 名のみ、保護者に説明と承諾を得て実施した。	
洗口の実施	4 月 1 日より、洗口方法を理解しているため、担任の指導の下実施する。 洗口液は事務室にて管理	昨年からの経験している子どもたちなのでスムーズに実施できた。

4. 問題となったこと・今後の課題とその対応について

- ・低学年の児童はミラノールの誤飲が心配されたが、児童に十分な説明を行い洗口されている。
ミラノールは洗口度に調剤しているが量が少なくなると、規定の分量が出ているか心配される。
- ・「フッ化物洗口」は継続されているが、基本となる歯みがきを充実させるため、担当職員が研修したり、歯科衛生士による歯みがき指導をするなど積極的にすすめる。

5. 21年度以降の事業の予定・市町村事業としての予算化の有無

現状では、市町村事業としては予算化の話はない。

平成20年度 フッ化物洗口普及モデル事業実施報告書

【市町村名】 山武市

【郡市歯科医師会名】 山武郡市歯科医師会

実施施設数			
保育所数	幼稚園数	小学校数	中学校数
1	1	0	0

1. フッ化物洗口に関する前年度までの経緯

平成 18 年度からのフッ化物洗口モデル事業により、年々事業を拡大し平成 19 年度末に市立保育所・幼稚園及び私立保育園の計 13 箇所で洗口が開始された。市内の認可園のうち、未実施の園は市立幼稚園 1 園と私立保育園 2 園となった。

2. 推進体制づくりの経緯

実施事項	具体的な内容	評価
保育園・幼稚園へ事業実施依頼	平成 20 年 7 月、未実施の保育園・幼稚園に対し、事業実施依頼を行い、実施希望の園を募った。	市立幼稚園 1 園・私立保育園 1 園の申込みがあった。 私立保育園 1 園は園長の方針により実施できないとのことであった。
保育園・幼稚園へ事業実施説明	申込みのあった園に対し、フッ化物洗口事業の詳細について説明を行った。	特に問題なく実施が決定した。

3. 施設における取り組み内容

施設①私立若杉保育園・園児数 98 名（対象者 46 名・希望者 46 名）職員数 24 名

実施事項	具体的な内容	評価
フッ化物洗口事業実施依頼	保育園長宛に事業実施について、希望調査を行った。	通知のみでは連絡が無かった。
フッ化物洗口事業実施説明	歯みがき教室の際、園長及び主任保育士に対し、フッ化物洗口について市の歯科衛生士が説明を行った。説明により実施する旨の回答が得られたため、事業の詳細及び今後のスケジュールを決定した。	保護者を集めることが困難とのことであったため、保護者への説明会は実施できなかった。
洗口事業への協力依頼	山武郡市歯科医師会山武市ブロック及び園歯科医へ事業協力依頼を行った。園歯科医が園へフッ化物洗口指示書を発行	歯科医師会及び園歯科医の協力はスムーズに得られた。
洗口希望調査	園に依頼し、保護者宛に希望調査表を通知し、実施希望者を募集。希望者名簿作成	
洗口の練習	市の歯科衛生士が園児に歯みがき指導を実施し、その後、園児と担任に洗口練習の方法を教え、水道水で洗口の練習を行った。洗口開始に向けて、洗口用の器具を使用し、通園日は毎日練習を実施	普段から食後の歯磨きを実施していたため、スムーズに練習できた。

実施事項	具体的な内容	評価
洗口の実施	薬剤の管理、使用方法、注意点について説明を行った。 洗口の流れ：昼食→歯みがき→洗口(週5回法) 薬剤：オラブリス・洗口液管理：主任保育士	特に問題なく開始できた。
保護者見学会	園において、参観日に保護者に対し、園児のフッ化物洗口実施状況を見学してもらい、説明等を行った。	保護者の理解が深まった。

施設施設②緑海幼稚園・園児数 32 名 (対象者 32 名・希望者 32 名) 職員数 4 名

実施事項	具体的な内容	評価
フッ化物洗口事業実施依頼	教育委員会への合議後、幼稚園長宛に事業実施について、希望調査を行った。	園の主任教諭より申込みの連絡があった。
フッ化物洗口事業実施説明	歯みがき教室の際、保護者に対し、フッ化物洗口について市の歯科衛生士が説明を行った。	フッ化物洗口のみ説明会は実施できなかったため、歯みがき教室の際行った。
洗口事業への協力依頼	山武郡市歯科医師会山武市ブロック及び園歯科医へ事業協力依頼を行った。園歯科医が園へフッ化物洗口指示書を発行	歯科医師会及び園歯科医の協力はスムーズに得られた。
洗口希望調査	園に依頼し、保護者宛に希望調査表を通知し、実施希望者を募集。希望者名簿作成	
洗口の練習	市の歯科衛生士が園児に歯みがき指導を実施し、その後、園児と担任に洗口練習の方法を教え、水道水で洗口の練習を行った。洗口開始に向けて、洗口用の器具を使用し、通園日は毎日練習を実施	普段から食後の歯磨きを実施していたため、スムーズに練習できた。
洗口の実施	薬剤の管理、使用方法、注意点について説明を行った。 洗口の流れ：昼食→歯みがき→洗口(週5回法) 薬剤：オラブリス・洗口液管理：主任教諭	特に問題なく開始できた。

4. 問題となったこと・今後の課題とその対応について

今年度3園の実施を計画していたが、私立保育園一箇所が主任保育士等の理解は得られたが、園長の理解が得られず実施できなかった。今年度開始となった私立保育園と家族での経営であるため同時実施できると思ひ、園長への説明が不足してしまったこと及び園長が薬品使用に反対していることが原因と考えられる。むし歯の子どもが多い地域であるため、機会をみつけながら根気よく説得をしていく必要がある。

5. 21年度以降の事業の予定・市町村事業としての予算化の有無

現在、モデル事業の有無に関わらず予算化しているため、今後も継続事業として実施していく予定である。

7. 記録写真等



①オラプリス配布



②洗口開始



③洗口中



④吐き出し



⑤コップ洗浄